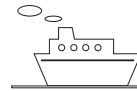


米の「食のバリアフリー」力を活かす！！



生産者通信

(有)エコ・ライス新潟
定価 100円(送料込)

オリ・パラ備蓄、新潟米の輸出、食育支援

新型コロナウイルスに負けず米を世界に広めるチャンス



○ドバイに10t(4回
目)、パリに4t
4月まではコロナの
影響で輸出がストップ
していましたが、今年
田植えにフランス
人、サウジアラビ
ア人が来県する



予定がキャンセルに。食べるだけではなく、米作りの体験を望む外国人の新しい市場が広がる予感がします。各国の規制緩和措置で輸出が動き始めました。6月3日にドバイに10トン、6月10日にパリに2トン、15日に1トン輸出します。5月には台湾、ハワイへ輸出。日本の米のすばらしさを理解する外国人が確実に増え、コロナ禍でも新潟の米を欲しています。



○都に50万食備蓄！
(10tトラック9台分)
尾西食品㈱「販売担当」、㈱美松「製造担当」、当社「米の生産」オリンピック・パラリンピック用として6月に備蓄されます。アレルギー、外国人、高齢者も食べられる「食のバリアフリー」は米だからできます。5年の賞味期限なので備蓄には最適です。



○学校田「ケルネル田んぼ」に「もち米」の苗を送りました
明治14年ドイツ人のオスカール・ケルネル氏が駒場農学校の試験圃に使用した田んぼを、筑波大学付属中学・高校の1年生200名がもち米を育てています。収穫したもち米で入学式・卒業式の赤飯として新入生、卒業生に配られます。
しかし、コロナ対策で今年の田植えは中止。そのサポートとして「わたぼうし」の苗を送り、筑波



大学の北村豊教授達、大人だけで田植えをしました。ケルネル田の伝統をコロナに負けず繋ぎました。
毎年、中野区、和光市、長岡市の学校田で田植え指導をしています。緊急事態宣言ですが、緊急事態宣言でなく苗とカルパー種子を送りました。今後の動向次第で稲刈り、ポン菓子等の指導に行けることを切に願います。

